

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第901号 平成27年3月23日

蘇る悪夢「地下鉄サリン事件」(1)

今から20年前の1995年(平成7年)3月20日、朝の通勤ラッシュで混雑する東京の地下鉄内で神経ガスのサリンが撒かれ、乗客や駅員ら3人が死亡、約6300人が負傷するという、無差別殺人事件が発生しました。

この事件は、「オウム真理教」の教祖麻原彰晃(松本智津夫)の指示により引き起こされたもので「地下鉄サリン事件」と称されていますが、その被害の大きさや悪質さにおいて戦後最悪のテロ行為であり、大都市で起きたテロとして世界に衝撃を与えました。

また、「オウム真理教」は、「地下鉄サリン事件」のみならず「坂本弁護士一家殺害事件」や「松本サリン事件」等数々の犯罪行為を行っています。

最近では、世界各地でテロが頻発しており、テロによって何人の人が犠牲になったというようなニュースに接しても余り驚かなくなりましたが、そうした自分に気が付いて、こんな事ではダメだと自分にいい聞かせているところです。

私が、テロというものを実感したのは、1974年(昭和49年)8月30日に発生した「三菱重工爆破事件」でした。

当時私は、霞が関で仕事をしており、昼食で有楽町界隈を歩いていたのですが、事件が起きたのは丁度その時でした。午後1時少し前大きな爆発音が聞こえ、列車事故でも起きたのではと皆で顔を見合わせていたところ、それが爆弾テロだと分かって、背筋がざわついた事を覚えています。

この事件は、「東アジア反日武装戦線」と称するグループが丸の内に在った三菱重工業東京本社ビルに時限爆弾を仕掛けたもので、この爆発による被害は死者8人、負傷者約380名に及び、爆弾テロとしては戦後最悪となっています。

また、1976年(昭和51年)3月2日に発生した「北海道庁爆破事件」も、私にとっては忘れ難い事件です。

この事件の発生当時も、私は東京で仕事をしていたのですが、道庁が爆破され、2人が亡くなり、80人余りが重軽傷を負ったとのニュースには心底驚かされました。

「アイヌ侵略の拠点だった」というのが道庁を標的にした理由のようですが、どんな理屈を並べたてようとも、無差別殺人を狙ったテロ行為を正当化する事は出来

ません。

テロリストにとっては、自分達が掲げる大義名分が如何に反社会的なものであり、正義に反するものであったとしても問題はないのでしょうか。むしろ、反社会的であればある程、テロ行為が社会を不安と恐怖に陥れる上で効果的だと考えているのかも知れません。

テロという暴力行為によっては何の問題も解決出来ない事は明らかです。そんな事は、テロリストも分かっているはずで。むしろ、テロという暴力行為は、問題の解決どころか、暴力行為の連鎖を生み、社会を混乱に陥れるだけです。そして、テロリストが狙っているのはその事ではないでしょうか。

それ故、私は、テロの卑劣さを憎みます。（続く）

（塾頭：吉田 洋一）